

2016年6月12日

## 福音書からのメッセージ

イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。  
(ルカによる福音書7章50節)

あるファリサイ派の人がイエス様を、食事の席に招きました。ファリサイ派というと、聖書の中ではまるで悪役であるかのように描かれている人たちです。その食事の席に、この町にいた一人の罪深い女がイエス様の後ろから近寄ってきます。そして彼女はイエス様の足もとに近づき、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエス様の足に接吻して香油を塗ったとあります。

この場面を少し想像してみましょう。とは言いましても、当時のユダヤでの食事風景を少し説明しておかないといけないと思います。わたしたちは食事をするときに、食卓につきます。テーブルがあって、その周りに座って食べると思います。また食事の場所についても、ある程度仕切られた空間でおこなうと思います。

ところが当時は、食事の場所に、他人が勝手に入ってくるのは珍しいことではなかったそうです。ただしある場合を除いてはですが。

また食事ですが、このころのユダヤでは寝そべておこなっていました。料理に頭を向け、左手で頬杖をつきながら体を支え、右手を伸ばして料理をほおばりました。そして、足は中心から放射線状に広がっておかれていたわけです。

ですから、招待客ではない人も近づきやすかったのです。イエス様が食事をしている足もとに、その罪深い女も近づくことはできたのです。ただ「できる」ということと、「してもよい」ということは、まったく



く違いました。彼女は罪深い女でした。彼女のような「罪人」はそのような食事の席に行ってはいけなかった。なぜならば、彼女に触れてしまうと他の人まで汚れてしまうと、ファリサイ派の人たちは考えていたからです。

その女性の姿を見て、またそのことに対して何もしようとしないイエス様に対して、ファリサイ派の人は心に憤りを覚えます。彼女は正しくないことをしたという思いが、彼の中にあっただけでしょう。

ファリサイ派のシモンと彼女との違いは何だったのでしょうか。イエス様は負債のたとえを語られます。多くゆるされた者は多く愛すというたとえです。彼女は多くゆるされたという自覚がありました。だから愛さずにはいられなかった。イエス様が近くに来ていると聞くと、いてもたってもいられなかったのです。

わたしたち一人一人も同じです。こんなわたしたちの罪をも、イエス様は赦してくださいました。罪深いわたしたちのままで、一人一人を受け入れてくださったのです。

そのことに気づきましょう。イエス様がわたしたちには必要なのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>